

Ⅲ. 3つの柱への取組報告

1. 授業の充実

今年度は、教員免許の取得を希望するすべての学生の必修授業である「障害児の発達と教育」における授業改善を図った。具体的な改善点は、以下の通りである。

- 前期の授業担当者4名、後期の授業担当者4名が、それぞれ共通のテキストを用いて授業を行った。後期の授業は4名が共通のシラバスを用いた。各障害について、DVDを使い、紹介した。
- 授業の開始時と終了時に特別支援教育に関するアンケートを実施することにより、学生の特別支援教育に関する実態を把握し、授業改善に生かすこととした。
- 後期の授業に関しては、昨年度の授業改善に引き続き、以下の演習を取り入れた授業を行った。
- オリエンテーションにおいては、附属特別支援学校と本学特別支援科学講座で共同作成した「特別支援教育ワンポイント講習」DVDを用いた。
- テキスト以外に、作成した「子どもへの支援」の冊子を受講しているすべての学生に配布し、発達障害の理解を促した。

以上の改善点に関して詳細を述べる。

1)シラバス (後期)

1. オリエンテーション、アンケート、概説
2. 障害児の発達
3. 障害児の教育
4. 障害児と教育支援1 (知的障害)
5. 障害児と教育支援2 (自閉症)
6. 障害児と教育支援3 (発達障害)
7. 障害児と教育支援4 (ことばの障害)
8. 障害児と教育支援5 (聴覚障害)
9. 障害児と教育支援6 (重度重複障害)
10. 特別支援教育の実践1 (通常学級における実践・通級による指導の実践)
11. 特別支援教育の実践2 (特別支援学級における実践・特別支援学校における実践)
12. アセスメント
13. 個別の指導計画 (演習)
14. まとめ
15. 試験

*1回目及び最終の授業においては、特別支援教育に関するアンケートを実施した。

*12回目および13回目の授業は、演習形式で行った。

*12回目の授業に関しては、大学院生3名ずつが、TAとして参加した。

2)テキスト

共通して用いたテキストは、春学期が「障害児者の理解と教育・支援、橋本創一、林安紀子ほか編著、金子書房、2008」、秋学期が「子どもの発達と特別支援教育、渡邊健治・小池敏英・伊藤友彦・小笠原恵 著、ジアース教育新社 2009」であった。

目次は以下の通りである。

「障害児者の理解と教育・支援」(春学期テキスト)

第I部 乳幼児から成人のベーシック支援システム

- 第1章 乳幼児の療育システムと障害児保育
- 第2章 特別支援教育のシステム
- 第3章 障害者福祉サービス
- 第4章 障害児者理解と支援のための基本的な考え方

第II部 さまざまな制約への理解&支援スペック

- 第5章 視覚に関する制約と支援
- 第6章 聴覚に関する制約と支援
- 第7章 運動に関する制約と支援
- 第8章 言語・コミュニケーションに関する制約と支援
- 第9章 健康に関する制約と支援
- 第10章 知的機能に関する制約と支援
- 第11章 学習活動に関する制約と支援
- 第12章 社会性に関する制約と支援
- 第13章 注意行動に関する制約と支援

第III部 教育&援助のためのアラカルト

- 第14章 脳科学と教育支援
- 第15章 障害児者支援と情報教育
- 第16章 インクルージョン保育/教育
- 第17章 キャリア教育・進路支援
- 第18章 アセスメント法
- 第19章 指導技法
- 第20章 指導計画と支援計画
- 第21章 社会福祉支援技術
- 第22章 障害者の高齢化への支援
- 第23章 重症心身障害者への地域支援



「子どもの発達と特別支援教育」(秋学期テキスト)

第1章 発達

- 第1節 障害児の発達と教育
- 第2節 認知の発達と支援
- 第3節 行動の発達と支援
- 第4節 言語の発達と支援

第2章 障害児の教育

- 第1節 特別支援教育の国際動向
- 第2節 特別支援教育の制度
- 第3節 わが国の特別支援教育の発展

第3章 障害と教育支援

- 第1節 知的障害と教育支援
- 第2節 自閉性障害と教育支援
- 第3節 言語の障害と教育支援
- 第4節 発達障害と教育支援

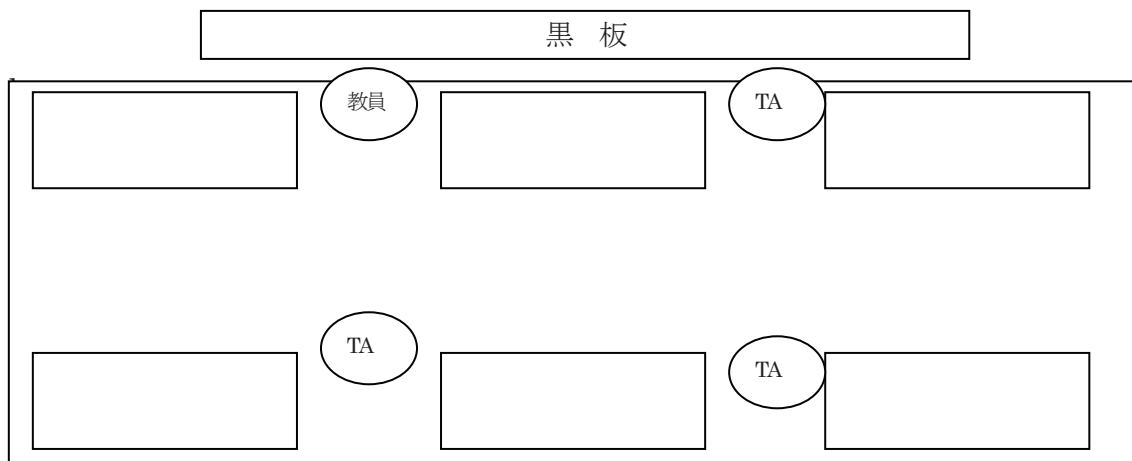


- 第5節 重度重複障害と教育支援
- 第4章 教育を支える支援科学の展開
 - 第1節 通常学級における実践
 - 第2節 通級による指導の実践
 - 第3節 特別支援学級における実践
 - 第4節 特別支援学校における実践

3)アセスメントに関する授業内容

以下の手順で、アセスメントに関する授業を行った。

1. 知能検査及び WISC-III の検査について(講義)(約 10 分)
 - ・ 知能検査で何を明らかにするか
 - ・ ビネー式検査における IQ の算出方法
 - ・ IQ(知能指数)の意味
 - ・ ウェクスラー検査の特徴、3つのタイプとそれぞれの適用年齢
 - ・ 検査実施上の注意事項(マニュアルに従うこと、評価方法など)
 - ・ 標準化や改定について
 2. WISC-III について (講義)(約 40 分)
 - ①各検査項目の実施方法
 - ②何(どんな能力)を評価するための項目であるか
 - ③この項目の評価点が低い場合にどういうことが想定できるのか
 - ④他の項目との関連性
 - ⑤言語性 IQ と動作性 IQ、群指数について
- * 教員が呈示するタイミングで、TA にも器具を呈示してもらおう。それぞれの器具を学生に回して手にとって見てもらおう。



3. 演習(WISC-III、「数唱」課題と「符号」課題) (約 20 分)
 - ・ 数唱と符号のやり方を説明する
 - ・ 2人一組でペアーを組む
 - ・ お互いの役割(検査者・被検査者)を決める
 - ・ 開始(早く終わってしまったペアーは役割を交代する)
4. テスト(約 10 分)

4)個別の指導計画に関する授業

個別の指導計画に関する授業は以下の手順で行った。

1. 個別指導計画について

以下の点について、現職教員にインタビューを行った約 50 分間の DVD を作成した。また、担任する ADHD のお子さんの様子も DVD の中に収録した。作成した DVD を基に、個別指導計画についての説明を行った。

- ・なぜ個別の指導計画が必要なのか
- ・個別の指導計画の作成手順
- ・誰がいつどのように作成するのか
- ・書式について
- ・保護者の思いをどのように取り入れるのか

*個別の指導計画の例、3 種類配布

2. 演習

事例について(約 5 分)

- ・ 特徴等について説明

ビデオ観察(説明 10 分+ビデオ 30 分程度)

- ・ 課題の説明
- ・ 通級の先生が作成した個別の指導計画を配布。用いた書式は「日常生活、友達関係」「朝の会(意志の伝達・手段適応)」「国語、算数」「体育」「作業」といった 5 つの領域にわけて実態、願い、在籍学級担任の要望、目標、当面の指導、在籍学級での配慮について書かれていた。予め、記入されていることを参考にしながら、ビデオを見て、自分が在籍級におけるこの児童の担任であった場合に配慮すべき点について、すでに書かれていること以外に 1 つ、5 つの領域ごとで考える。
- ・ ビデオの観察

個別の指導計画の記入(30 分程度)

- ・ 5 つの領域を示した記入用紙を配布





5) 特別支援教育に関するアンケート結果

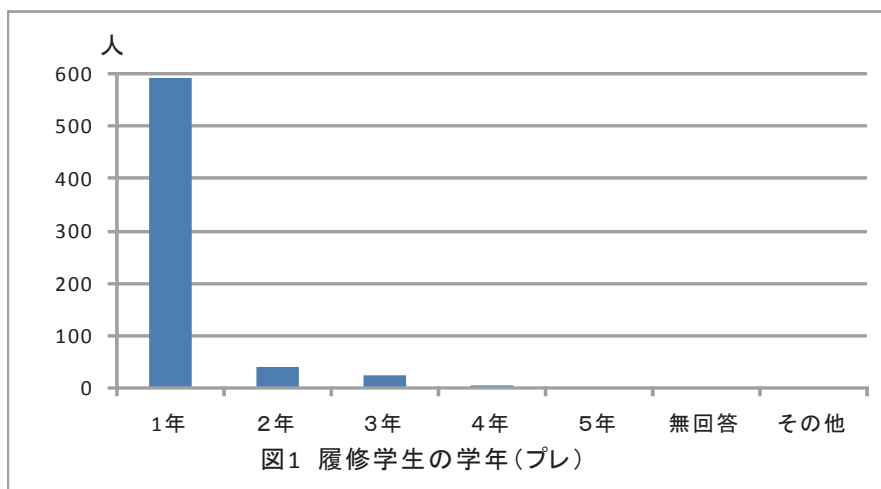
「障害児の発達と教育」の授業の開始時と終了時に、この授業を受講しているすべての学生を対象として、同一のアンケートを行った。この「特別支援教育に関するアンケート」は、特別支援教育に関する 30 の用語について、受講生がどの程度知っているのかを 3 段階で回答してもらった。また、これまで障害のある人と直接かかわったことがあるかどうかについて、特別支援教育の免許の取得希望について、授業でどのようなことを学びたいかについて回答してもらった。本報告書においては、春学期のみの結果を示す。

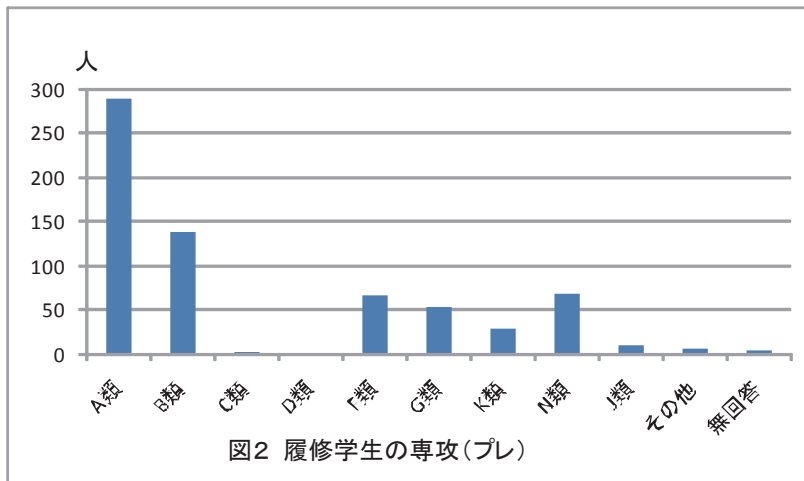
授業開始時に行ったアンケートの回収数は、開始時 671、終了時 600 であった(回収率 94.4%)。以下、アンケートの結果を示す。

(春学期)

(1) 受講生の学年・専攻

受講生の学年・専攻について以下の図 1 および図 2 に示した。

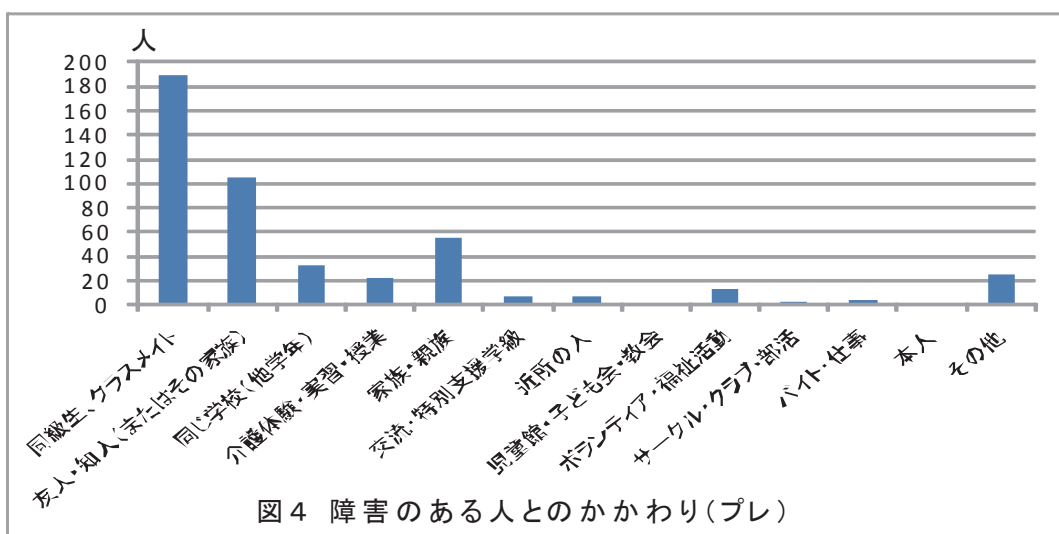
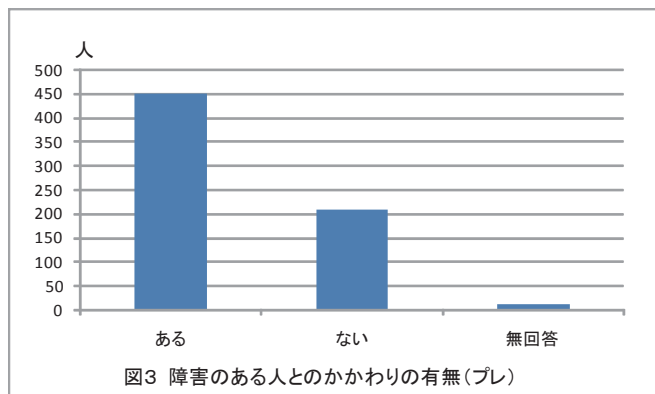




受講生は、1年生が最も多く、また、小学校教員養成課程であるA類の学生が最も多かった。本学では、F、G、K、N類はそれぞれ教養系の学生であり、卒業単位として教員免許の取得は必要ない。

(2) 障害のある人とのかかわり

図3に授業開始時における障害のある人とのかかわりの有無について、図4にその関係性の内訳について示した。



授業開始時、これまで障害のある人とかかわりがあったと回答したものは全体の67%、450名であった。その内訳は、同級生に障害のある人がいたと回答するものが最も多く全体の約28%を占めた。

(3) 特別支援教育に関する用語の認知度

特別支援教育に関する用語30種類について、どの程度知っているのか、「全く知らない」「少しは知っている」「よく知っている」の3段階の尺度で回答してもらった。

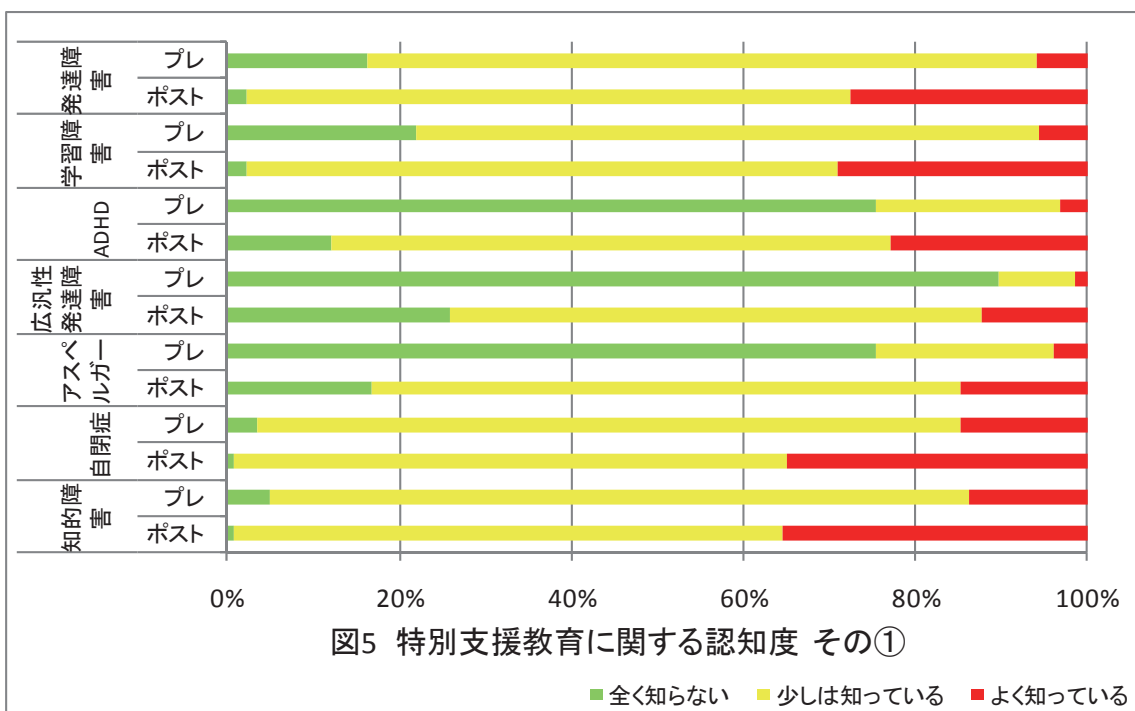


図5 特別支援教育に関する認知度 その①

■ 全く知らない ■ 少しは知っている ■ よく知っている

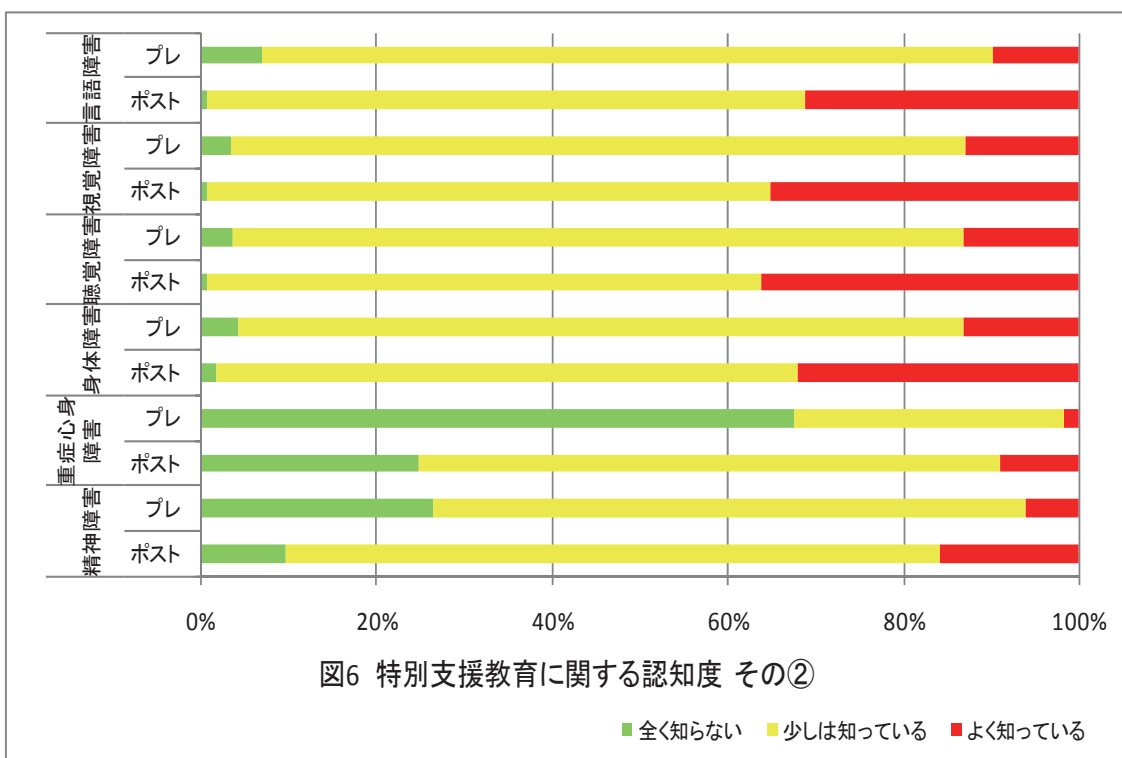


図6 特別支援教育に関する認知度 その②

■ 全く知らない ■ 少しは知っている ■ よく知っている

図5および図6に示したように示したように、授業開始以前、50%以上の学生が「全く知らない」と回答した障害種として、「広汎性発達障害」「アスペルガー症候群」「ADHD」「重症心身障害」があった。授業終了時に「アスペルガー症候群」と「ADHD」については、「全く知らない」と回答した学生は20%以下となった。

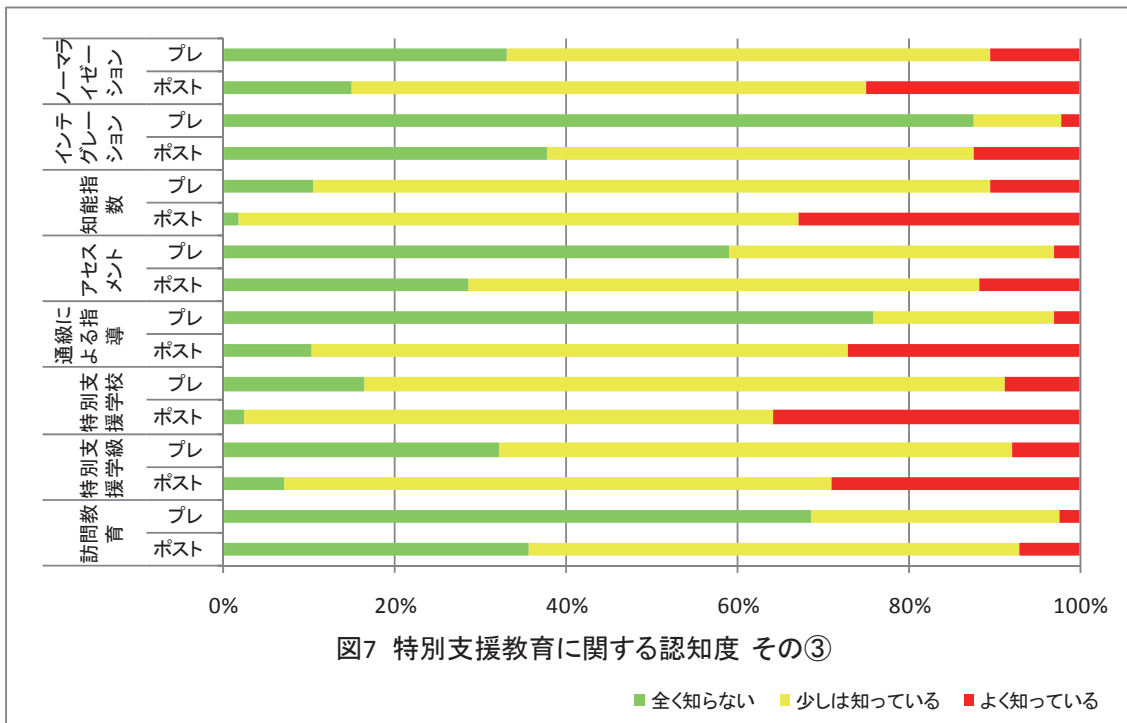


図7 特別支援教育に関する認知度 その③

■ 全く知らない ■ 少しは知っている ■ よく知っている

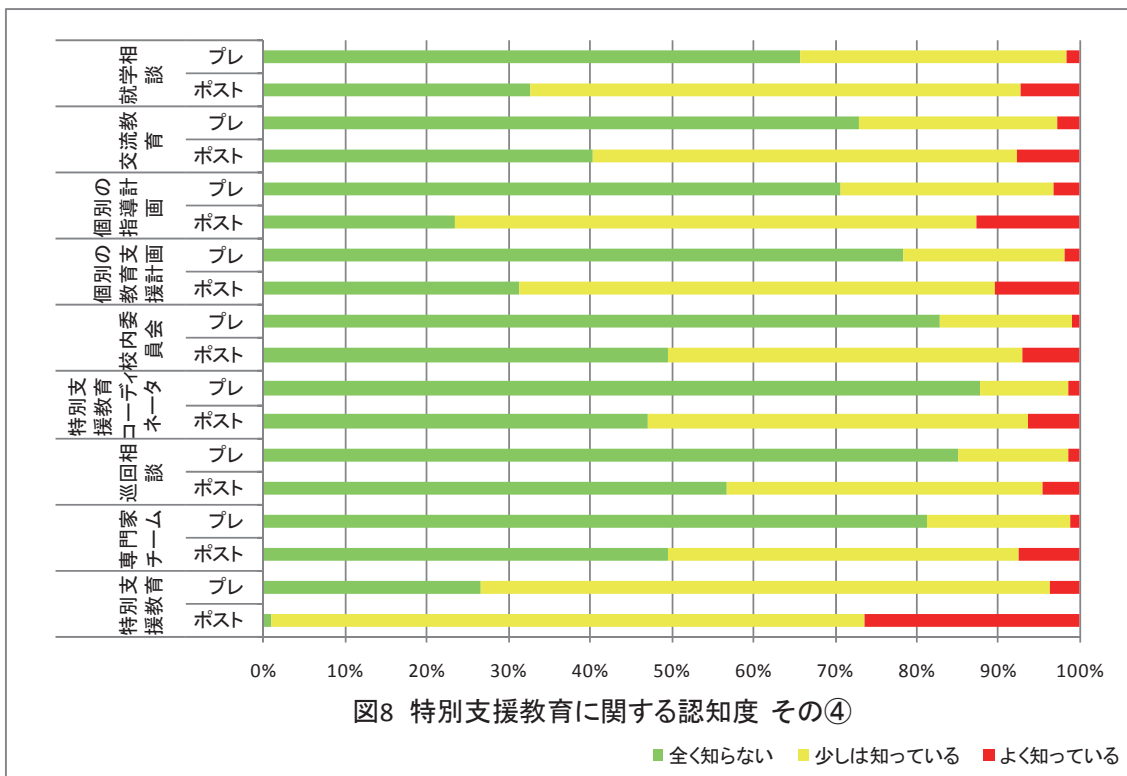


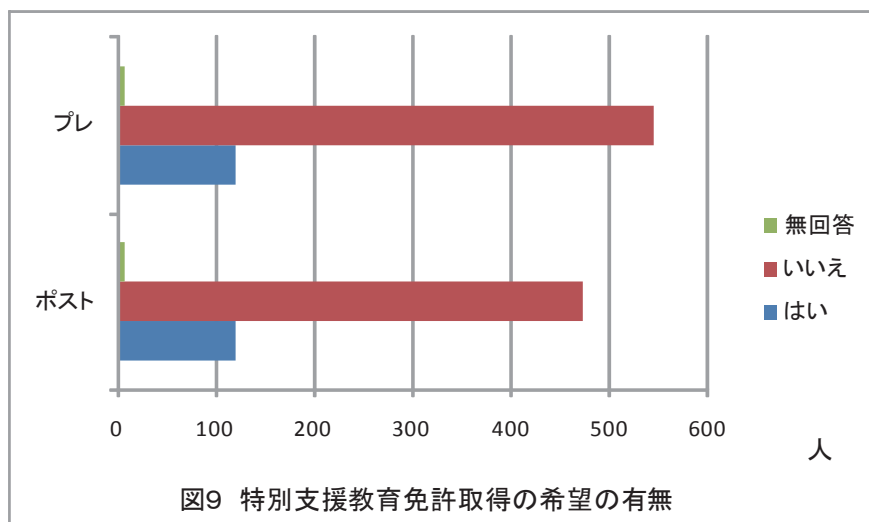
図8 特別支援教育に関する認知度 その④

■ 全く知らない ■ 少しは知っている ■ よく知っている

図7および図8に示したように、特別支援教育に関する用語についての認知度において、授業開始時、80%以上の学生が「全く知らない」と回答したものは「インテグレーション」「校内委員会」「巡回相談」「特別支援教育コーディネータ」「専門家チーム」であった。授業開始時に最も多くの学生が「よく知っている」と回答したのは、「特別支援学校」であった。

(4) 特別支援教育の免許取得の希望

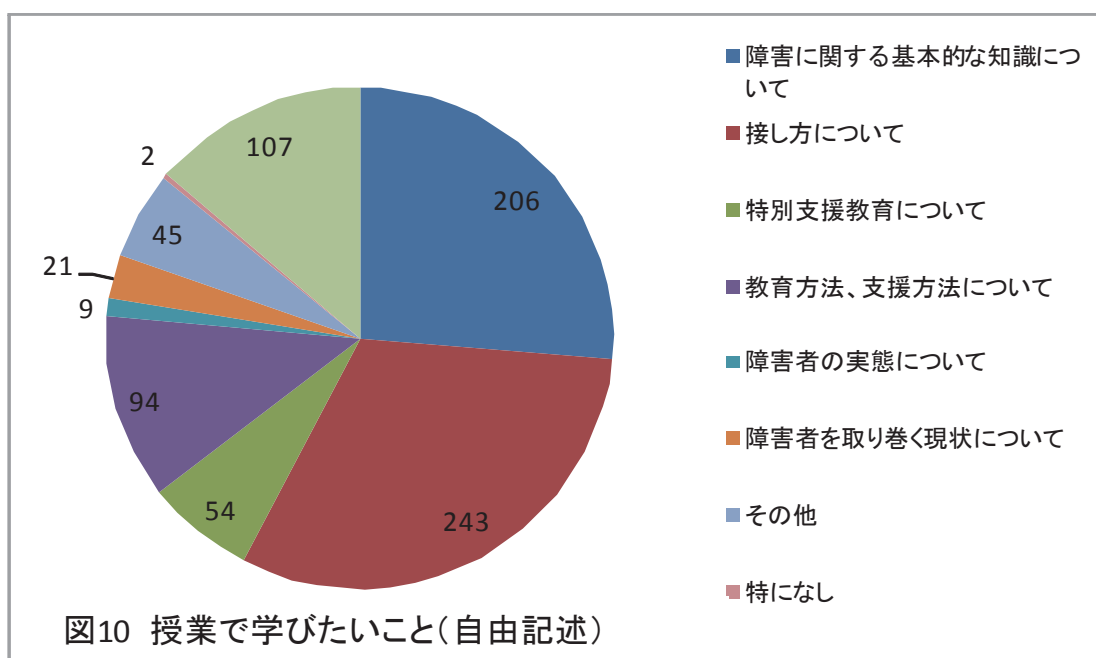
図9に、特別支援教育の免許取得を希望しているのか否かについての回答結果を示した。

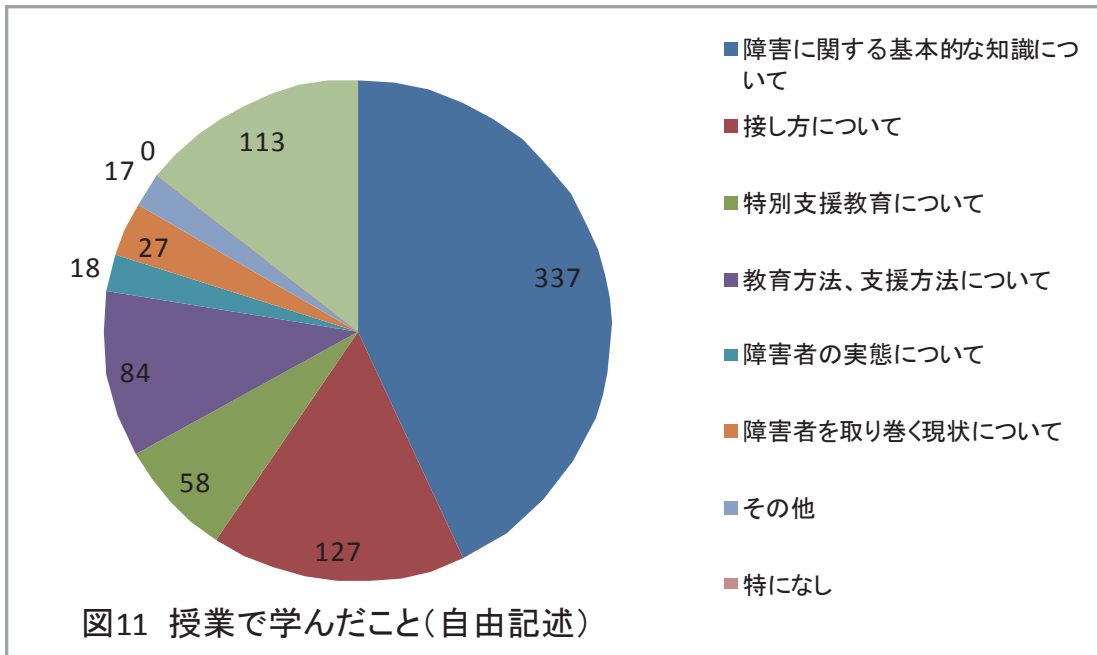


免許の取得を希望している学生は、授業開始時119名であったのが、授業終了時に120名と若干増加した。

(5) 授業で学びたいこと・学んだこと

授業開始時の授業の中で学びたいこと、学んだことを示したのが図10、図11である。





授業開始時に学びたいこととしてあげられたのは、「接し方」に関するものが最も多く、「障害に対する基本的な知識」「教育方法・支援方法」と続く。授業終了時に学んだこととして挙げられたのは、「障害に関する基本的な知識について」であり、「接し方」と続く。

特別支援教育に関するアンケート

このアンケートは、皆さんの特別支援教育に関する意識について、現在と授業後の2回、調査を行うことにより、授業効果をはかるとともに、授業改善のために用います。成績にはいっさい関係しません。ご協力をお願いします。

1. 学年、性別、所属について教えてください。(年生) (男・女) (類 専攻(専修))
2. これまでの障害のある人と直接かかわったことがありますか?ある場合には、あなたとの関係を教えてください。
(ある ・ ない)
あるに○をつけた場合:(あなたとの関係)
3. 以下の項目について、どの程度知っていますか?自分の現在の状態について当てはまるものに1つ○をしてください。

NO	質問	全く知らない	少しは知っている	よく知っている
1	特別支援教育			
2	発達障害			
3	学習障害			
4	ADHD			
5	広汎性発達障害			
6	アスペルガー症候群			
7	自閉症			
8	知的障害			
9	言語障害			
10	視覚障害			
11	聴覚障害			
12	身体障害			
13	重症心身障害			
14	精神障害			
15	ノーマライゼーション			
16	インテグレーション(統合教育)			
17	アセスメント			
18	個別指導計画			
19	個別の教育支援計画			
20	校内委員会			
21	特別支援教育コーディネータ			
22	巡回相談			
23	専門家チーム			
24	知能指数(IQ)			
25	通級による指導			
26	特別支援学校			
27	特別支援学級(固定)			
28	就学相談			
29	交流教育			
30	訪問教育			

4. あなたは特別支援教育の免許を取得したいと考えていますか?(はい ・ いいえ)
5. この授業でどのようなことを学びたいですか?

アンケートは以上です。記入漏れがないかどうかもう1度確認してください。ご協力ありがとうございました。